

医学部・医学系研究科

I	研究水準	研究 6-2
II	質の向上度	研究 6-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究活動の実施状況については、専任教員一名当たり 4.5 件の論文を公表している。学会の発表数も 300 件、受賞数も 30 件、紫綬褒章、朝日賞等も受賞している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金が 300 件あり競争的外部資金では COE プログラム等 140 件が採択されているなど、優れた成果がある。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、先進的で臨床と密着した研究が進められている。発表されている雑誌も nature、cell 等国際的に高い評価を受けているものが多い。卓越した研究成果には、例えば、DNA 分解酵素の遺伝子欠損マウスと関節リュウマチ、遺伝子発現プロファイル解析による抗癌剤の乳癌に対する効果予測モデルの開発、WT1 ペプチドによる免疫療法の開発等注目されるものが多く、卓越した成果を収めている。社会、経済、文化面でもこれらの新しい治療法、疾患モデルが注目を集めており、強いインパクトを与え、卓越した成果を収めていることは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 2 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。